

令和4年度 奈良県立香芝高等学校 学校評価総括表(年度末報告)

【高等学校用】

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	これまでの本校での取組と成果の上に、生徒・保護者及び地域のニーズを踏まえ、生徒が「行きたい」、保護者が「行かせたい」、そして地域から信頼される学校を創り、以下の人材を育成します。 1 人権を尊重し、豊かな人間性と創造性を備えた人材 2 探究的な学習を通して、コミュニケーション能力や情報活用能力を備えた人材 3 地域の高校として、地域の未来を担っていく人材
年度重点目標	(1)新しい高校教育への対応 ① 観点別学習状況評価への完全対応 ② 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善 ③ ICT機器を活用した授業の推進 (2) 自他の生命を尊重する心の育成と、規範意識の向上 ① ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を身に付け、社会の一員として社会に貢献する意欲と責任ある態度の育成 ② 爽やかな挨拶と生活マナーの向上、適正な制服の着こなしの定着 ③ 交通ルールの遵守を中核に据えた安全教育の推進 (3) たくましい心身の育成 ① 運動に主体的に取り組む姿勢と健康の保持増進への実践力の育成 ② ヘルスパロモーションの考え方に基づく体力向上の推進 ③ スクールカウンセラー等を活用した教育相談の充実 (4) 地域から信頼され応援される学校づくりの推進 ① 市の教育関係機関と連携した活動の展開 ② ボランティア活動及び地域行事等への積極的参加 ③ 近隣小・中学校との交流の推進 (5) 教職員の働き方改革への取組 ① ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善 ② 定時退庁日(毎水曜日)を意識した業務改善

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の使命や教育方針を理解する生徒 2 基礎的な学力が身に付いており、主体的に学ぶ意欲の高い生徒 3 明るく、素直で、チャレンジ精神をもち、社会貢献の意識が高い生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)	本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、激動の社会に対応できる能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 1 生徒一人一人の興味・関心や進路希望に対応するため、多様な科目選択ができるカリキュラムを編成します。 2 個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICTを最大限活用した授業を展開します。 3 情報活用能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育むため、言語活動を重視した探究型の学習を行います。 4 学習意欲の向上を図り、主体的な学び・深い学びに繋げるため、ICTを効果的に活用した授業プログラムを展開します。 5 主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神を涵養するため、学校行事や課題活動、ボランティア活動などを計画的に組み入れます。
	育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 個人の尊厳を重んじ、礼節を学び、常に和敬の心をもって自他の向上に努めることができる。(和敬) 2 学業に励み、真理を希求し、勤労と責任を重んじ、日々たゆまず努力し、新たな文化の創造に努めることができる。(創造) 3 常に心身の健康に励み、高い知性と健全な身体を培い、強固な意志とたくましい実践力を身に付けていく。(健康)

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	※(E)(F)評価基準 A・・・90%以上達成(十分である) B・・・70%以上達成(ほぼ十分である) C・・・50%以上達成(あまり十分でない) D・・・達成度50%未満(改善を要する)		
					自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(G)
1. 心と身体を子どもの成長に合わせてはくぐむ	体力の向上	新体カテストスコアの校内平均値が県平均以上	新体カテストスコアの校内平均値が県平均と同値	全学年男女全ての県平均値は50.1、本校平均値は49.6であった。学年別では、3年男子は県平均よりもかなり優れているが、2年男子が県平均を下回った。3年女子、1年男子は県平均と同程度であった。	A	A	2年生の授業の中に筋力・敏捷性を高める運動を多く取り入れる。学校全体で運動部への加入率を増やせるように生徒指導部と協力する。
	望ましい生活習慣の確立	1人あたり年度遅刻回数(怠惰や不注意によるもの)が2回以下	1人あたり年度遅刻回数(怠惰や不注意によるもの)が3回以下	令和4年度の総遅刻回数は3,477回であり、一人あたり年度遅刻回数は3.6回であった。	B	B	遅刻した際に記入しなければならない入室許可書の様式を変更し、生徒自身や担・副担任が遅刻の累積数を確認・把握しやすくし、繰り返しの遅刻をなくように指導する。
	自他を尊敬する和敬の心の涵養	校内生徒アンケートの設問「他人の気持ちや、きちんと思っていることができていますか」に肯定的回答が95%以上	校内生徒アンケートの設問「他人の気持ちや、きちんと思っていることができていますか」に肯定的回答が85%以上	左記の設問「他人の気持ちや、きちんと思っていることができていますか」に、「とてもそう思う」、「おおむねそう思う」の肯定的回答をした生徒の割合が95.2%であった。しかし、「とてもそう思う」が「おおむねそう思う」に比べてまだまだ低い。	A	A	普段の挨拶や日常会話を通して、コミュニケーション能力を高めるよう指導し、他者との共感能力を高め、和敬の心を育てる。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはくぐむ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	生徒授業アンケートの設問「(授業中に)考えたり、活動したりする時間が十分にあった」の評価が3.5以上	生徒授業アンケートの設問「(授業中に)考えたり、活動したりする時間が十分にあった」の評価が3.3以上	左記の設問「(授業中に)考えたり、活動したりする時間が十分にあった」の評価(4段階評価=4:そう思う、3:だいたいそう思う、2:あまりそう思わない、1:そう思わない)は、年間平均で3.34となり、令和4年度末目標値を達成した。	A	A	「指導と評価の一体化」に資する教員のスキル向上のための、実際的な研修をOJTの一環として実施する。
	学習意欲の向上	校内生徒アンケートの設問「授業中、充実感を感じていますか」に肯定的回答の割合が75%以上	校内生徒アンケートの設問「授業中、充実感を感じていますか」に肯定的回答の割合が60%以上	左記の設問「(授業中、充実感を感じていますか)への肯定的回答(「とても充実感を感じている」と「概ね充実感を感じている」の合計)は、1年生で76.7%、2年生で75.9%、3年生で86.5%であり、令和4年度末目標値を達成するとともに、計画期間における目標値をわずかに上回った。これに甘んじず、右記の「改善方策」をより具体的なものにしていく。	B	A	評価後における、生徒への効果的なフィードバックを模索する(PDCからAへ)。(例) 評価を受け、また、生徒の振り返りを踏まえ(エビデンスの集積)、長期的な視点で学校全体で取り組むカリキュラム・マネジメントを計画・試行する。
	ICTを活用した教育の推進	校内生徒アンケートの情報活用能力に関する設問に肯定的回答が入学時比で20%増	校内生徒アンケートの情報活用能力に関する設問に肯定的回答が入学時比で10%増	令和4年9月より、電子黒板とBYODを活用した教育活動を推進している。校内の生徒意識調査において、令和4年4月の入学時に比べ、11項目中10項目において肯定的回答が10%以上増加している。特に、問題を発見したり探究したりするために、情報を収集、整理、分析、表現、発信する方法や、情報活用の計画や改善のための方法を理解していると答えた生徒が増加した。	A	A	授業事例や実践の取組を共有することで、一層のICTを活用した教育の推進を行う。また、次年度入学生についても、今年度と同様に、教員、生徒、保護者に対して、適切な時期、方法で情報を提供し、円滑な教育活動の展開を図る。
	読書活動の推進	月に全く読書をしていない生徒の割合50%以下	月に全く読書をしていない生徒の割合60%以下	校内の生徒意識調査において「平均して月に読む本の冊数が0冊」と答えた者の割合が1年59.9%、2年68%、3年67.3%、全体では64.9%という結果であった。昨年度(68.6%)よりははやや減少した。	C	C	読書啓発活動として、1年生で実施した図書館オリエンテーション、教科(国語科)との連携を一層充実させ、他学年、他教科にも拡大する。また「朝の読書」を柱に、本校図書館所蔵の本の紹介の仕方を工夫する。
3. 働く意欲と働く力をはくぐむ	インターンシップの充実	アカデミックインターンシップを年度2校以上と実施	アカデミックインターンシップを年度1校以上と実施	奈良学園大学と連携し、12月20日(火)に実施「人間教育学部」2名、保健医療学部4名が参加	B	B	内容は充実していたが、参加者が少なかったため、次年度以降は生徒連へのアピールを強化する。また、奈良学園大学以外の大学との連携に向けて、新たに計画を進める。
	地元企業等との協働事業の実施	年度2回以上の実施	年度1回以上の実施	文化図書館、生徒会が中心となり、香芝市役所及び市民図書館と連携し、シラスリボン運動、エコバッグ運動、読書推進活動等を展開した。また、表現探究コースでは、三郷町との連携によるSDGs現地フィールドワークの実施やFMヤママとの連携によるラジオを通じた表現の学びを実践し、多様な取組を展開した。複数の企業との連携により活動の選択肢を増やしていきたい。	A	A	さらなる内容の充実や機会の増加を進める。
	キャリア教育の推進	外部講師または社会人講師によるキャリア教育講演会を年度2回以上実施	外部講師または社会人講師によるキャリア教育講演会を年度1回以上実施	面接講座(6月23日)実施 職業理解講座(1月23日)実施 モチベーションアップ講座(2月8日)実施	A	A	講師の選定により一層配慮する。また、生徒が主体的に講座を聴き、内容を振り返ることができるような仕掛けを行う。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会を年度3回開催	学校運営協議会を年度2回開催	今年度、学校運営協議会を設置し、令和4年7月7日に第1回の学校運営協議会を開催した。第2回は、令和5年2月22日に開催し年度内で2回開催できたが、現時点では、地域と協働して活躍する人を育てるための具体的な活動を実施するには至っていない。	B	B	学校運営協議会において熟議したことを実際の活動に繋げていけるよう新たな専門部会の立ち上げを進める。
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」のフィールドワーク及びプレゼンテーションを年度計3回以上実施	「奈良TIME」のフィールドワーク及びプレゼンテーションを年度計1回以上実施	学級でのプレゼンテーション(1月30日、2月6日)実施 学年でのプレゼンテーション(2月13日)実施	A	A	プレゼンテーションの仕方について、その手法を学習したり、実際の発表を見たりするなど、より一層深める時間を設定する。
	地域の学校との交流の推進	相互交流事業を年度計5回以上実施	相互交流事業を年度計3回以上実施	香芝東中学校へのお出前授業の実施、西と看護学校との美術作品の交換展示、真美ヶ丘西小学校への陸上競技指導の実施や花の植え替え事業など、3校との交流事業を実施することができた。	A	A	昨年までの2校から、今年度は3校との交流を実施することができた。一方、コロナ禍前は、この3校以外の学校とも交流していた実績もあり、次年度以降さらに地域の学校との交流を推進し、有意義な学びの場を確保する。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	人権教育の推進	人権学習集中ホームルーム及び外部講師による人権講演会、研修会を年度計5回以上実施	人権学習集中ホームルーム及び外部講師による人権講演会、研修会を年度計3回以上実施	人権教育年間指導計画に基づき、各学年において指導案を作成し、各学年のLHRで実施をした。人権学習集中HRでは人権作文を題材に各学年で工夫して展開した。人権講演会はコロナの影響で学年毎にテーマを設定し、3回実施をした。	B	B	今年度は、学年毎の講演会を実施したが、来年度は文化図書館との共同開催となり、学年毎の講演の実施が講師の選定を含め困難が予想される。そのため、講師選定等、早期の計画・対応に努める。
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	校内生徒アンケートの設問「いじめや差別のない学校だと思う」に肯定的回答の割合が95%以上	校内生徒アンケートの設問「いじめや差別のない学校だと思う」に肯定的回答の割合が85%以上	校内の生徒意識調査において「いじめや差別のない学校だと思う」に肯定的な回答が1年79.9%、2年74.9%、3年86.1%という結果であった。	C	B	校内の生徒意識調査において、1年と2年の回答の平均値が77.4%と3年に比べて、8.7ポイントも低く、その原因を早急に究明し対策を講じる必要がある。教育相談等から生徒との信頼関係を深め、カウンセリングなどの活用を促し、改善に努める。
	個別の教育支援計画の活用	教育相談・特別支援教育委員会の年度5回以上の開催	教育相談・特別支援教育委員会の年度3回以上の開催	毎学期の当初に開催し、特別支援生徒を含む配慮を要する生徒について情報を共有し、必要に応じて対応を講じた。また、担任及び学年と連携を図り、生徒の実態に応じて特別支援生徒の認定を行い、全職員に通知し今後の対応をケース会議等で協議し、支援計画を作成した。	B	B	特別支援生徒を含む配慮を要する生徒に対して、欠席状況や個人面談等により早期発見に努め、本人や保護者の願いを聞き、各方面と連携しながら対応に努める。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

令和4年度末に実施の本校生徒及び保護者を対象としたアンケート結果として、「本校に入学してよかった」と回答した生徒の割合は、91%であり、「本校に入学させてよかった」と回答した保護者は、90%であった。また、生徒の回答を学年別に見た場合、1年生は87%、2年生は88%、3年生は97%の生徒が「本校に入学してよかった」と回答し、学年が上がるとともに、高い満足度を得ている結果となった。  
令和4年度末の状況を受けての学校関係者評価は、16項目のうちAが9つ、Bが6つ、Cが1つとなり、4年度末の目標値を概ね達成することができた。この結果をもとに、次年度はより適切な目標値を設定することで教育目標の達成に繋げていく。